

EX プランニング実践塾

課題の確認

まず始めに 回の課題の敷地条件および施主の要望について確認しておきましょう。
敷地条件は北入りで、道路と敷地の高低差は1,800mmもあり、かなり高低差が大きな物件でした。

主な施主の要望は

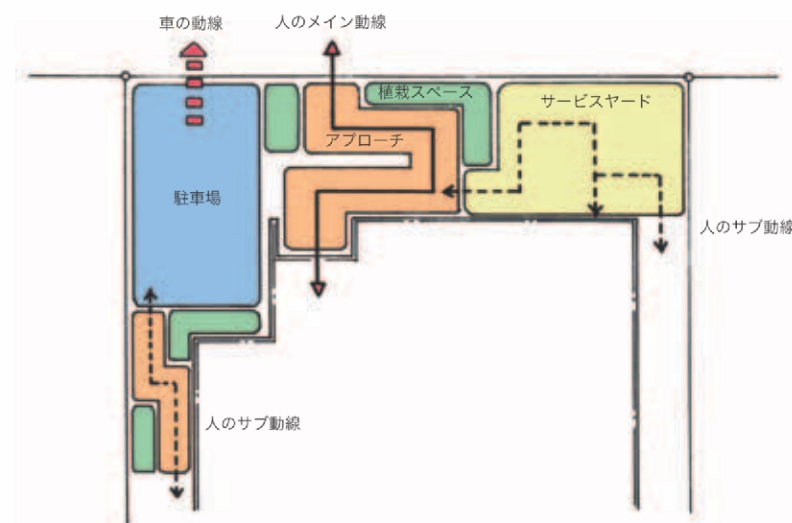
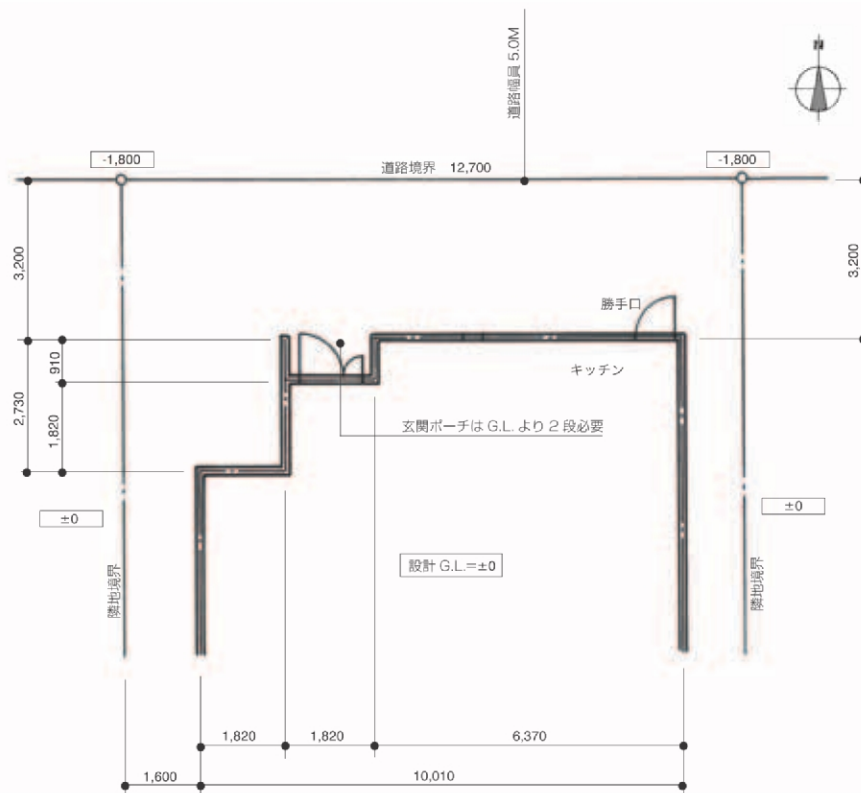
- 駐車場 1 台分の確保。
 - 玄関までの階段の提案。
 - サービスヤードの提案。
- などでした。

北入り狭小地で、高低差の大きな物件という難しい物件となっていました。みなさんはどのようなプランで対応されたでしょうか？

今回もまずはゾーニング図を使って基本的な考え方や、動線計画を解説していくことにしましょう。

ゾーニング

今回の建物配置であれば駐車場は北東の角に直角駐車とすることがベストだと思います。メインアプローチには少なくとも階段が 11 段と玄関ポーチで 2 段の合計 13 段必要となりますので、出来るだけ長くアプローチをとり、踏み面をしっかり確保できるようにしましょう。長い階段は一気に上がるのではなく途中で踊り場を設けたり、上がる方向に変化を付けると良いでしょう。かなり狭いスペースとなりますが、できるだけ植栽スペースを組み込み、柔らかな表情になるよう心がけるとよいでしょう。



模範プラン

それではゾーニング図をもとに作成した模範プランをご覧ください。

立面図と比較しやすいように、便宜上平面図は北を下にして表示しています。ほとんど擁壁と階段がメインのプランですが、壁の色を明るくし、植栽の緑が映えるよう計画してみました。

平面図

人の動線が二方向に分かれる部分の床は踊り場として広めに。

玄関方向からサービスヤードが丸見えにならないよう目隠しを。

この植栽でサービスヤードのイメージが大きく変わる。

曲がり階段は安全を考慮して 45 度で。

クランク状の階段とすることで視覚的に階段の長さを感じさせないようにしています。また、途中に踊り場を設けることで、子供や高齢者にもやさしい階段となっています。

玄関と道路の間にシンボルツリーが入ると、落ち着いた感じになる。

立面図

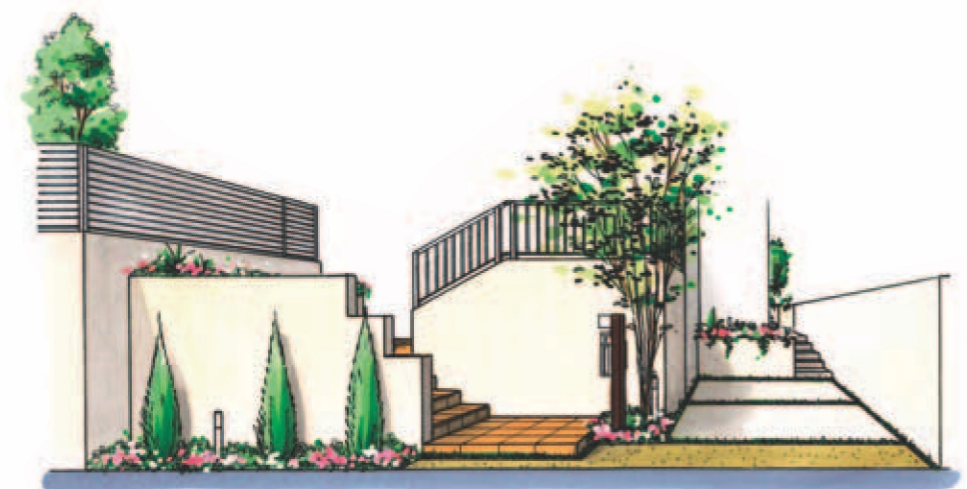
視線と風を考慮して目隠しタイプのフェンスを採用。

転落防止柵としては床から 1.1m 以上必要。

階段まわりに照明を設置すると安全だけでなく防犯効果も。

ちょっとしたスペースでも照明と組み合わせて植栽を提案。

イメージパース



もちろん、このプランが正解というわけではありませんので、あくまでもプランの一例としてご覧いただきご自分で考えられたプランと比較して、各ゾーンのバランスや納まりなど、実邸を設計する際の参考にいただければ幸いです。